【投稿論文】

戦前における日本の聾唖教員名簿

新　谷　嘉　浩　　中　根　伸　一
近畿聾史研究グループ＊1　　札幌聾史研究会＊2

戦前（明治11年 - 昭和20年）の間に創設された全国各地（外地も含む）の盲唖学校及び聾唖学校の沿革、そしてその学校に在籍していたであろう聾唖教員たちの存在を明らかにし、その学校の歴史を知ると共に先人たちの業績を再評価すべく名簿としてまとめた。

キーワード：戦前　聾唖教員　名簿　全国　外地　盲唖学校　聾唖学校　沿革

1．はじめに

この調査は、平成16（2004）年12月に開催された第７回日本聾史学会広島大会の分科会「ろう教育」で「戦前のろう教師パージ（追放）」をサブテーマに、パージ（追放）された戦前の聾唖教師たちの業績を改めて再調査する目的で、新谷嘉浩と中根伸一（以下、中根と略）の両人が中心となって戦前における日本の聾唖教員名簿を作成したのが始まりであった[1]。数年が経ち、戦前の聾唖教員や盲唖学校、聾唖学校に関する新たな情報が次々と入ってくる中、広島大会でまとめた聾唖教員名簿の改訂の必要性が高まり、日本聾史学会会長の當間正敏の勧めで中根と相談し、改めて資料を確認し、ここに改訂版としてまとめた。

2．調査方法

名簿作成にあたっては、広島大会でまとめた『戦前の全国聾唖教員名簿』[1]をベースに下記の文献および全国各地の盲学校、聾学校、そして聾学校同窓会の記念誌やウェブサイト、戦前に刊行された書籍や雑誌などを調査した。

①日本聾唖協会（1914－1942）『聾唖界』1－97

②日本聾唖教育会編（1936）『全国聾唖学校寄宿通学生徒調査　附　在校生中の後年聾者・難聴者数及聾唖者の教員数』「全国聾唖学校諸調査」昭和11年度，P１－10

③日本聾唖教育会編（1939－1940）『全国聾唖学校寄宿通学生徒調査　附聾唖者の職員数』「全国聾唖学校諸調査」昭和14・15年度，p１－10

④岡本稲丸（1990）『文部省年報に見る聾（唖）教員の推移』（「ろう教育科学」32号3巻），p25

⑤筑波大学附属聴覚特別支援学校編（2012）『復刻口なしの花　殿坂の友』「東京聾唖学校同窓会誌」1－4

3．今後の課題

今後の課題は、上記③④に聾唖教員がいたと数字で出ているのにも関わらず、聾唖学校に実際に在職した聾唖教員は誰

かわからないのでこれを調査することである。例えば、山形１名、和歌山は1940（昭和15）年１名、岡山は1929（昭和4）年まで男女１名ずつ、広島は1924（大正13）年に女性１名と『文部省年報』に報告がある。その他、卒業生が就いた職業状況欄の中に教員に就いた聾唖者がいたにも関わらず、実態が掴めないのは中越盲唖学校１人、朝鮮総督府済生院盲唖部１人[2]である。

さらに全国各地の盲唖学校及び聾学校の沿革の再調査が必要である。本稿の聾唖学校沿革はウェブサイトを参考にしたものが多数であるが、中には自校で検査せずに誤った沿革を掲載した聾学校ウェブサイトがあるので改めて検査する必要がある。

４．謝辞

名簿の改訂作業にあたって、聾唖教員や文献の情報をご教示いただいた岡本洋、岸博美、斎木昭孝、松延秀一、そして近畿聾史研究グループ、札幌聾史研究会に厚く御礼を申し上げる。最後に作成者の怠慢と文献調査や収集の制約でいくつかの漏れがあると思われるが、今後とも引き続き沿革と聾唖教員の調査は続けていきたいと思う。ご教示いただければ幸いである。

＜凡例＞

（１）盲唖学校及び聾唖学校の校名は、日本聾唖教育会（1940）『全國聾唖学校手話口話状況一覧　昭和15年５月20日』（「聾唖教育」6号）より参照した。

（２）上記の文献に記載されていない盲唖学校及び聾唖学校は1940（昭和15）年当時の校名や創立年を記載した。1945（昭和20）年以前に廃校となった盲唖学校及び聾唖学校は、廃校となった当時の校名を使用、年月は創立から廃校及び閉校までを記載した。なお、1946（昭和21）年以降に創設された聾唖学校及び聾学校については、本題の趣旨に合わないので外した。

（３）「最終卒業学校」は、その者の最終卒業した学校名及び学科を調査で判明した範囲で記載した。なお、最終卒業学校の不明はブランクとした。

（４）「最終資格」は、退職時の資格を調査で判明した範囲で記載した。なお、不明の場合は“（？）”とした。

（５）「勤務期間」は、調査で判明した範囲で勤務先の盲唖学校及び聾唖学校への奉職や転入年月を「自」、退職及び転出年月を「至」とした。なお、勤務期間の不明や未調査は“（？）”とした。

（６）【　　】…各盲唖学校や聾学校の創設から現在までの沿革をあらわす。

（７）＜　　＞…各盲唖学校や聾学校における口話学級の設置年月を示す。日本聾唖福祉協会（1943）『手話口話生徒状況調査（昭和十七年十二月末現在）』（「聾唖の光　教育号」第２巻第４号）の「口話学級創設ノ時期」と「備考」によった。なお、〔※〕は日本聾唖協会編（1933）『全国聾唖学校口話手話状況一覧（昭和8年5月20日現在）』（「聾唖教育」

22号）によった。

（8）呼称「唖」と「唖」両方の使用がみられたが、ここでは「唖」と統一した。

氏名	最終卒業学校	最終資格	勤務期間		備考
			自	至	
樺太盲唖学校 【昭和6年私立豊原盲唖学院→昭和14年私立樺太盲唖学校→昭和19年樺太聾唖学校→昭和20年廃校[3]】 ＜昭和6年6月17日＞					
大前(船崎)静子	不明	教員	昭和10年	昭和13年	日本聾話学校より官立東京校の記録なし
私立函館盲唖院 【明治35年函館訓盲院唖生部→明治45年私立函館盲唖院→昭和22年函館市立盲唖学校→昭和23年盲唖分離・北海道立函館聾学校→昭和25年北海道函館聾学校→現在に至る[4]】 ＜手、口、別ナシ、指文字使用五〇人（一）モ加算※＞　（一）…研究科一名を指す					
辻本　繁	東京聾唖学校師範科図画科	教員	明治45年4月	昭和2年10月	函館校唖生部卒業 官立東京校師範科の修学中は休職扱
加香　さだ	東京聾唖学校裁縫科	裁縫科教員	大正2年6月	大正3年4月（?）	大正7年には教員在職の記録あり
岩田　鎌太郎	東京盲唖学校教員練習科	教員	大正6年12月	大正14年7月	福井校解雇より
篠崎(吉岡)スエ	函館盲唖院別科	裁縫科助手	昭和15年4月	昭和15年12月	
山田　治男	函館盲唖院	絵画科助手	昭和17年9月	昭和18年3月	
旭川盲唖学校 【大正11年私立旭川盲唖学校→昭和23年盲唖分離・北海道立旭川聾学校→昭和25年北海道旭川聾学校→現在に至る[5]】＜昭和3年4月1日＞					
山中　忠太郎	東京聾唖学校師範科木工科	教員	大正2年4月	大正4年	宮城校へ
吹田　友太郎	小樽盲唖学校	製靴科助手	大正4年4月	大正7年10月	明治43年小樽盲唖学校卒業
小林　芳女	小樽盲唖学校	聾唖部助手	大正9年9月	大正11年1月	東京市出身 大正3年小樽盲唖学校卒業
新岡　喜一	小樽盲唖学校普通科	木履嘱託	大正15年4月	（?）	
佐藤　顕二	小樽盲唖学校	聾唖部助手	昭和2年4月	昭和22年	昭和2年小樽盲唖学校卒業 官立東京校へ転校の後、再入校。
私立八雲聾唖学院 【昭和3年→昭和11年室蘭へ移転［7］】＜昭和4年4月1日※＞					
辻本　繁	東京聾唖学校師範科図画科	校長	昭和3年	昭和11年	室蘭校へ移転
是安　つな	東京聾唖学校高等科		昭和3年	昭和6年（?）	函館校出身 （大正9年卒）

氏名	最終卒業学校	最終資格	勤務期間		備考
			自	至	
私立室蘭聾唖学院 【昭和11年私立室蘭聾唖学院→昭和14年室蘭聾唖学校→昭和23年北海道立室蘭聾学校→昭和25年北海道室蘭聾学校→現在に至る[7]】 ＜昭和12年4月1日＞					
辻本　繁	東京聾唖学校師範科図画科	校長	昭和11年	昭和29年	八雲校から移転
小谷　正雄	室蘭聾唖学校	助手	昭和20年	昭和21年	札幌星光聾唖学園へ
私立札幌聾話学校 【大正14年北海道吃音矯正会聾唖部→昭和2年私立札幌盲唖学校→昭和6年盲唖分離・私立札幌聾話学校→昭和22年北海道立御影聾学校→昭和24年閉校[8]】 ＜大正14年7月1日＞					
鈴木(中村)時子	小樽盲唖学校	助手	昭和2年	昭和2年	
田中　皎一	空知太国民青年学校	助手	昭和18年	昭和26年	のちに教員免状取得
宮内(熊倉)初栄	札幌聾話学校	助手	昭和16年4月	昭和17年3月	
田中(早坂)キミ	札幌聾話学校	寮母	昭和16年（?）	昭和25年	
鈴木　忠光	函館商船学校	教員	大正14年	昭和2年	金沢校へ
私立帯広盲唖院 【昭和12年私立帯広盲唖院→昭和23年盲唖分離・北海道立帯広聾学校→昭和25年北海道帯広聾学校→現在に至る[9]】＜記録ナシ＞					
青森県立青森盲唖学校 【大正14年青森盲人教育所→昭和6年私立青森盲唖学校→昭和12年青森県立盲唖学校→24年盲唖分離・青森県立聾学校→現在に至る[10][11]】＜昭和6年4月1日＞					
青森県立八戸盲唖学校 【明治24年東奥盲人教訓会→明治44年私立東奥盲人学校→昭和2年私立八戸盲唖学校→24年盲唖分離・青森県立八戸聾学校→現在に至る[12]】＜昭和2年4月1日＞					
楢館　弥三郎	岩手盲唖学校	教員	昭和12年5月	（?）	
岩手県立盲唖学校 【明治44年私立岩手盲唖学校→昭和23年盲唖分離・岩手県立聾学校→36年岩手県立盛岡聾学校→岩手県立盛岡聴覚支援学校→現在に至る[13][14]】 ＜大正13年10月10日＞					
小岩井　是非雄	東京聾唖学校図画科	嘱託	明治45年4月	大正2年9月	官立東京校師範科へ入学
齋藤　芳太郎	岩手盲唖学校	嘱託	大正8年4月	大正10年4月	
秋田県立盲唖学校 【明治45年秋田県立盲唖学校→昭和23年盲唖分離・秋田県立聾学校→現在に至る[15]】 ＜昭和2年4月1日※＞＜昭和6年4月1日＞＜純口話ハ昭和9年＞					
三浦　浩	東京盲唖学校教員練習科	訓導	大正元年4月	大正2年3月	官立東京校へ
豊田　源治郎	東京聾唖学校師範科普通科	教員	大正14年4月	昭和9年3月	出典／秋田県立聾学校『創立百周年記念誌』

氏名	最終卒業学校	最終資格	勤務期間		備考
			自	至	
宮城県立盲唖学校 【明治35年宮城師範学校附属唖生部→明治39年私立仙台唖人学堂→大正3年宮城県立盲唖学校→昭和23年盲唖分離・宮城県立聾学校→平成21年宮城県立聴覚支援学校→現在に至る[16][17]】 ＜昭和8年4月1日＞					
長岡　威	東京盲唖学校尋常科	助手	明治36年11月30日	明治37年秋	宮城師範学校附属唖生部助手出典／『口なしの花』1,p39
小野　中庸	私立仙台唖人学堂	助手 嘱託	大正元年9月 大正7年10月	大正3年 大正10年5月	私立仙台唖人学堂助手
山中　忠太郎	東京聾唖学校師範科木工科	訓導	大正3年4月	大正10年5月	小樽校から
尾形　賢之助	東京盲唖学校高等科図画科	嘱託	大正4年5月	大正7年1月	茨城校へ
山中(松本)福代	東京聾唖学校師範科裁縫科	訓導	大正8年10月	昭和12年3月	松本校へ
山川　廣	宮城県立盲唖学校初等部	嘱託	大正12年4月	昭和10年2月	
加藤　常太郎	東京聾唖学校師範部甲種工芸科第1部	嘱託	昭和7年7月	昭和12年3月	宮城県立盲唖学校初等部卒業
山形県立盲唖学校 【昭和2年私立山形聾唖学校→昭和10年山形県立山形聾唖学校→昭和23年山形県立山形聾学校→現在に至る[18]】 ＜昭和2年7月8日＞					
1名在職					
福島盲唖学校 【昭和4年私立福島訓盲学校の学則変更し、私立福島盲唖学校とし聾唖部設置→昭和6年県立代用→昭和19年県立移管→昭和23年福島県立盲ろう学校→昭和35年盲唖分離・福島県立聾学校→現在に至る[19]】 ＜昭和4年5月22日※＞＜複式口話手話ノ別ナシ＞					
県立代用私立二本松聾唖学校 【大正15年私立二本松聾唖学校→昭和6年県立代用→昭和19年県立移管し福島校に統合[20]】 ＜大正15年1月22日＞					
栃木県立宇都宮盲唖学校 【明治42年私立栃木盲唖学校→昭和10年栃木県立盲唖学校→昭和14年盲唖分離・栃木県聾唖学校→昭和23年栃木県聾学校→現在に至る[21]】＜昭和7年4月＞					
茨城県盲唖学校 【明治41年私立茨城盲唖学校→大正元年財団法人茨城盲唖学校→大正13年茨城県聾唖学校→昭和23年茨城県聾学校→昭和41年茨城県立水戸聾学校→現在に至る[22]】 ＜大正15年9月＞					
高和　徳之助	東京盲唖学校尋常科		大正4年	大正6年	出典先／『東京聾唖学校一覧』
尾形　賢之助	東京盲唖学校高等科図画科		大正7年	昭和5年3月28日	宮城校より
埼玉県立盲唖学校 【大正12年埼玉県立盲学校に唖部を設置→昭和12年県立移管→昭和25年盲唖分離・埼玉県立聾学校→昭和31年埼玉県立大宮ろう学校→平成21年埼玉県立特別支援学校大宮ろう学園→現在に至る[23]】＜昭和6年4月＞					

氏名	最終卒業学校	最終資格	勤務期間		備考
			自	至	
群馬県立盲唖学校 【大正11年私立高崎聾唖学校→昭和2年私立前橋盲学校・私立桐生盲学校と統合し群馬県立盲唖学校→昭和23年盲唖分離・群馬県立聾学校→現在に至る[24][25]】＜昭和2年4月＞					
石川　進	東京聾唖学校図画科 東京聾唖学校師範部甲種図画科第一部	教諭（私立） 教諭（県立）	大正11年5月 昭和2年3月	大正13年3月 昭和9年9月	官立東京校在学中は休職
藤波　元一	東京聾唖学校師範部甲種工芸科第一部	訓導	昭和4年1月14日	昭和7年3月31日	浜松校へ
官立東京聾唖学校 【明治13年訓盲院→明治17年訓盲唖院→明治20年東京盲唖学校→明治43年東京聾唖学校→昭和24年国立ろう教育学校附属ろう学校→昭和25年東京教育大学国立ろう教育附属ろう学校→昭和26年東京教育大学教育学部附属ろう学校→昭和33年東京教育大学教育学部附属聾学校→昭和48年東京教育大学附属聾学校→昭和53年筑波大学附属聾学校→平成19年筑波大学附属聴覚支援学校→現在に至る[26][27]】 ＜大正14年4月＞					
高木　愼之助	東京盲唖学校高等科・図画科・裁縫科	和服裁縫科助手	明治26年3月	明治31年10月	休暇の後、横浜監獄根岸学校盲唖部へ
吉川　金造	東京盲唖学校高等科図画科	図画科助手	明治26年3月	明治33年3月	豊橋校へ
片桐　貞吉	東京盲唖学校図画科	彫刻科助手	明治28年3月	明治35年9月	
江島　安之助	東京盲唖学校高等科図画科	雇（教務）	明治32年3月	明治35年9月	
横江　榮雄	東京盲唖学校教員練習科	教諭	明治37年4月	昭和12年8月	
横江(松井)花子	東京盲唖学校図画裁縫科	助手	(?)	(?)	出典／『殿坂の友』22,P57
稗田　尚	東京盲唖学校教員練習科	嘱託（木工）	明治39年4月	昭和9年3月	
荒井　芳平	東京盲唖学校教員練習科	嘱託（裁縫）	明治39年4月	昭和11年5月	
三浦　浩	東京盲唖学校教員練習科	雇（教務） 助教諭	明治39年12月 大正2年3月	明治45年12月 昭和30年1月	月岡山校 大正元年4月-大正2年3月秋田校
長谷川　みね	東京聾唖学校師範科図画科	嘱託（裁縫）	明治43年4月	大正10年2月	
田村　信次	東京聾唖学校師範科図画科	嘱託（図画）	明治44年5月	昭和6年9月	
中川　誠一	東京聾唖学校師範科木工科	嘱託（木工）	大正2年4月	昭和12年3月	
高木　周二	東京聾唖学校師範科図画科	嘱託（初等科）	大正2年4月	昭和20年3月	
川口　静夫	東京聾唖学校木工科	嘱託（予科）	大正3年1月	(?)	
山添　大助	東京聾唖学校師範科木工科	嘱託（木工）	大正4年4月	大正8年3月	神戸校へ

氏名	最終卒業学校	最終資格	勤務期間		備考
			自	至	
山中(松本)福代	東京聾唖学校師範科裁縫科	雇（裁縫）	大正5年10月	大正7年6月	仙台校へ
中川　和三郎	東京聾唖学校師範科裁縫科	訓導	大正7年9月	昭和12年3月	
我謝　盛輝	東京聾唖学校師範科図画科	嘱託（教務）	大正9年5月	昭和4年4月	沖縄校へ
駒井　かず	東京聾唖学校師範科裁縫科	嘱託（裁縫）	大正11年5月	大正12年4月	
大原　省三	東京聾唖学校研究科	雇	昭和17年4月	昭和19年3月	昭和24年5月31日再就職
尾形(三浦)知惠子	東京盲唖学校高等科図画科	訓導	(?)	昭和20年6月	
星野　初枝	東京聾唖学校中等部婦人子供服科	臨時助手	昭和15年	昭和18年	

東京市立聾学校
【大正14年日比谷尋常小学校特別学級、萬年尋常小学校特別学級→大正15年東京市立聾学校→昭和18年東京都立聾学校→昭和24年東京都立大塚ろう学校→現在に至る[28]】＜大正15年6月＞

東京市立養育院盲唖部【明治34年唖生教育の開始→明治42年巣鴨分院→大正3年（?）[29][30]】
＜記録ナシ＞

岩田　鎌太郎	東京盲唖学校教員練習科		明治39年	大正元年（?）	

東京府立聾唖学校
【昭和9年→？ 東京都立品川聾学校→平成18年東京都立中央聾学校[31]】
＜昭和9年4月＞

私立日本聾話学校【大正9年開校→現在に至る[32]】＜大正9年4月28日※＞

大前(船崎)静子	不明	図画科教員	大正12年4月	昭和2年3月	のち樺太校へ

東京昭和学園【昭和7年→昭和20年戦災[33]】＜昭和7年5月5日※＞

東京聾唖技藝学園
【昭和8年開校→昭和11年向島聾唖技藝学園→昭和12年東京聾唖技藝学園→昭和23年東京愛育苑→昭和31年金町学園→現在に至る[34]】＜昭和8年9月＞

巣鴨聾唖学園【昭和4年開園→昭和15年活動停止[35]】＜昭和2年4月20日※＞

東京聾話学校【大正15年東京聾話学院→昭和6年東京聾話学校→不明[36]】＜記録ナシ＞

言泉学園【昭和4年→昭和19年閉園[37]】＜昭和4年4月※＞

千葉縣立聾唖学校
【昭和6年千葉県立聾唖学校→昭和23年千葉県立千葉聾学校→現在に至る[38]】＜昭和6年5月12日＞

横浜市立聾話学校
【大正15年私立横浜聾話学院→昭和2年横浜市立本町尋常高等小学校特別学級→昭和8年横浜市立聾話学校→昭和24年横浜市立聾学校→平成19年横浜市立ろう特別支援学校→現在に至る[39]】＜大正15年4月※＞

氏名	最終卒業学校	最終資格	勤務期間		備考
			自	至	
横浜監獄根岸学校盲唖部 【明治37年→明治42年[40]】＜記録ナシ＞					
高木慎之助	東京盲唖学校高等科・図画科・裁縫科	教員	明 治36年５月14日	明 治37年７月25日	出典／『口なしの花』1,p39
神奈川県立盲唖学校 【大正14年私立中郡聾唖学校→昭和8年神奈川県立盲唖学校→昭和23年盲唖分離・神奈川県立平塚ろう学校→現在に至る[41]】＜大正14年4月8日＞					
馬淵聾唖学校 【昭和4年馬淵聾唖学校→昭和26年学校法人馬淵聾学校→昭和28年横須賀市立ろう学校→現在に至る[42]】 ＜昭和4年5月28日＞					
山梨県立代用山梨盲唖学校 【大正11年山梨訓盲院に聾唖部を設置し、私立山梨盲唖学校→昭和6年山梨県立代用盲唖学校→昭和17年山梨県立盲唖学校→昭和24年盲唖分離・山梨県立ろう学校→現在に至る[43]】＜昭和6年4月1日※＞					
新潟盲唖学校 【新潟県立盲学校の前身、明治40年～大正11年まで聾唖部、昭和2年に聾唖生の卒業により聾唖部が解消[44]】 ＜記録ナシ＞					
内田　虎雄	東京盲唖学校尋常科		明治40年	大正2年	
中越盲唖学校【明治41年→明治44年聾唖児の入学→大正12年[45]】＜記録ナシ＞					
1名在職					
私立新潟聾口話学校 【昭和2年私立新潟聾口話学校→昭和21年新潟県聾口話学校→昭和23年新潟県立新潟聾学校→現在に至る[46]】 ＜昭和2年5月15日※＞					
梅田　直三	早稲田大学	書記兼教員	大正11年	昭和3年	難聴
長岡盲唖学校 【明治38年私立長岡盲唖学校→大正11年県立長岡聾唖学校→昭和3年県立長岡盲学校と併立→昭和20年併立の長岡盲学校廃止→現在に至る[47]】 ＜大正14年4月＞					
多田　眞佐雄	東京盲唖学校教員練習科		明治39年5月 昭和5年3月	大正5年4月 (?)	広島校へ 福岡校から
金子　進太郎	東京聾唖学校師範科裁縫科		大正5年5月	昭和27年	
丸山　浩太	東京聾唖学校師範部甲種裁縫科第一部		昭和2年6月	昭和39年	
私立五泉聾唖学校【大正3年～4年[48][49]】＜記録ナシ＞					
豊島　良作	東京盲唖学校尋常科				

氏名	最終卒業学校	最終資格	勤務期間		備考
			自	至	
長野盲唖学校 【明治36年長野尋常小学校に唖人教育所を付設→大正13年長野盲人学校と唖人教育所を合わせ私立盲唖学校→昭和8年長野市に移管→昭和25年長野県長野盲唖学校→昭和26年長野県立盲学校、長野県立聾学校、長野県立長野盲唖学校の三校→昭和28年長野県長野盲唖学校の自然廃止→長野県立ろう学校→現在に至る[50]】 ＜大正13年4月1日＞					
私立松本聾唖学校 【昭和3年松本女子求道付属聾唖教育所→昭和10年私立松本聾唖学校→昭和23年松本市立松本聾学校→昭和25年長野県松本聾学校→現在に至る[51]】＜記録ナシ＞					
小岩井　是非雄	東京聾唖学校師範部甲種図画科第一部	校長兼教諭	昭和3年	昭和30年	
甕　信夫	松本聾唖学校	図工科助手	昭和11年	昭和20年	
長岡　たけよ	松本聾唖学校	助手・寮母	昭和14年	昭和54年	
山中　福代	東京聾唖学校師範部裁縫科	教諭・教頭	昭和17年	昭和26年	宮城校から
富山県立盲唖学校 【昭和6年私立富山盲唖学校→昭和7年富山県立盲唖学校→昭和23年盲唖分離・富山県立聾学校→昭和40年富山県立富山ろう学校→平成22年富山県立富山聴覚総合支援学校→現在に至る[52][53]】＜昭和6年4月1日※＞					
私立金沢盲唖院【明治13年～明治14年[54]】＜記録ナシ＞					
松村　精一郎			明治13年5月	明治13年7月	院長任期
石川県立聾唖学校 【明治41年私立金沢盲唖学校→大正2年石川県教育会付属私立金沢盲唖学校→大正11年石川県立盲唖学校→大正13年校名分離・石川県立盲・聾唖学校→昭和23年石川県立ろう学校→昭和40年盲聾分離→現在に至る[55][56]】 ＜昭和2年4月1日＞					
伊藤　嘉彌人	京都市立盲唖院高等普通科	図画科助手	(?)	(?)	
改田　彌作	京都市立盲唖院高等普通科	尋常科助手	大正11年4月	昭和6年3月	
鈴木　忠光	函館商船学校	教員	昭和4年4月	昭和24年9月	札幌聾話学校より
香川　銀一		助手			出典／『聾唖界』30, p48
静岡聾唖学校 【大正6年静岡盲唖学校→大正8年財団法人静岡盲唖学校→大正13年静岡聾唖学校→昭和8年静岡県立静岡盲唖学校→昭和9年静岡県立聾唖学校→昭和23年静岡県立静岡聾学校→平成20年静岡県立聴覚特別支援学校→現在に至る[57]】＜昭和9年4月6日＞					
石井　勇	東京聾唖学校師範科木工科	訓導	大正6年	昭和13年3月	浜松校へ
浜松聾唖学校 【大正12年私立浜松盲学校に併設する形で私立浜松聾唖学校→昭和20年財団法人浜松聾唖学校→昭和23年静岡県立浜松聾学校→平成20年静岡県立浜松聴覚特別支援学校→現在に至る[58]】＜記録ナシ＞					
浅倉　清（宏之）	東京聾唖学校高等科		(?)	(?)	豊橋盲唖学校卒業
上原　貞次郎 （旧姓：宮澤）	東京聾唖学校師範科図画科		大正15年4月	(?)	

氏名	最終卒業学校	最終資格	勤務期間		備考
			自	至	
藤波　元一	東京聾唖学校師範部甲種工芸科第一部		昭和9年2月	(?)	群馬校から
石井　勇	東京聾唖学校師範科木工科		昭和13年	(?)	静岡校から
淺羽　君枝（改姓後：池富）	東京聾唖学校中等部婦人子供服科		(?)	(?)	
加藤　儀一	愛知県聾学校研究科		(?)	(?)	昭和10年愛知校研究科卒業
上原　千種	東京聾唖学校裁縫科		(?)	(?)	
山浦　五郎	東京聾唖学校師範部甲種図画科第一部		(?)	(?)	豊橋盲唖学校卒業
鈴木　律平	豊橋盲唖学校		(?)	(?)	
藤波(海野)満子	東京聾唖学校裁縫科		(?)	(?)	
田中　武一郎	京都市立盲唖院普通科		(?)	(?)	
村上　次郎	東京聾唖学校師範科図画科		昭和3年	(?)	
私立豊橋盲唖学校 【明治31年私立捨石訓唖義塾→明治33年私立豊橋盲唖学校→昭和8年愛知県立豊橋盲唖学校→昭和23年盲唖分離・愛知県立豊橋聾学校→現在に至る[59]】 ＜昭和14年4月1日＞					
吉川　金造	東京盲唖学校図画科	教員	明治33年4月	大正9年3月	三重校へ
吉川(相原)八重	東京盲唖学校裁縫科	嘱託	明治34年4月	大正元年9月	「八重子」「やへ」の名も有
小山　保次	豊橋盲唖学校	助手	明治37年10月	明治39年1月	その後、官立東京校へ入学
山本(佐宗)やつ	豊橋盲唖学校	嘱託 裁縫助手	明治41年4月	大正3年3月	
吉川(鈴木)しげ	豊橋盲唖学校	裁縫助手	大正5年4月 大正8年4月	大正6年7月 大正9年2月	三重校へ “志げ”名も有り
小久保　八朗	東京聾唖学校師範科図画科	教員	大正3年4月 大正12年4月	大正11年3月 昭和14年8月	豊橋盲唖学校卒業 大正11～12年下関校
山浦　五郎	豊橋盲唖学校	助手、嘱託	大正10年4月	大正12年3月	退職後、官立東京校高等科へ入学
中島　治	東京聾唖学校裁縫科	訓導	大正11年6月	昭和25年3月	
私立岡崎盲唖学校 【明治36年私立岡崎盲唖学校→昭和22年愛知県立岡崎盲唖学校→昭和23年盲唖分離・愛知県立岡崎聾学校→現在に至る[60]】＜大正13年4月1日＞					

氏名	最終卒業学校	最終資格	勤務期間		備考
			自	至	
桑子　勤治	京都市立盲唖院中等部図画科		大正2年7月	昭和8年3月	私立岡崎盲唖学校第一回卒業
愛知県聾学校 【明治34年私立名古屋盲学校→私立名古屋盲唖学校→大正元年名古屋市立盲唖学校→大正13年県立代用→昭和7年愛知県盲唖学校→昭和8年盲唖分離・愛知県聾学校→昭和23年愛知県立名古屋聾学校→現在に至る[61][62]】 ＜大正9年4月1日＞					
大島　為道	京都市立盲唖院尋常科	嘱託教員	大正元年9月	大正8年3月	
金兒　はしの	名古屋市立盲唖学校	助手	大正元年10月	昭和3年4月	明治44年3月名古屋校普通科卒業
土井　久吉	名古屋市立工芸学校	嘱託教員	大正11年4月	昭和10年3月	大正3年名古屋校技芸科図画科卒業
岐阜県聾唖学校 【昭和6年岐阜県聾唖学校→昭和25年岐阜県立岐阜聾学校→現在に至る[63]】＜昭和6年4月2日＞					
三重県立盲唖学校 【大正8年三重慈善協会より三重盲唖院→大正11年私立三重盲唖学校→大正14年三重県立盲唖学校→昭和22年盲唖分離・三重県立ろう学校→現在に至る[64]】 ＜大正14年3月20日＞					
吉川　金造	東京盲唖学校図画科	教員	大正9年4月	昭和6年10月	豊橋校から
吉川　志げ	豊橋盲唖学校	訓導	大正10年4月	大正14年3月	豊橋校から
後藤　徹治	名古屋市立盲唖学校技芸図画科	教員	大正12年	昭和6年	大正12年3月名古屋校普通科卒業
福井県立聾唖学校 【大正4年私立福井聾唖学校→昭和4年福井県立聾唖学校→昭和24年福井県ろう学校→昭和32年福井県立ろう学校→現在に至る[65]】＜昭和4年4月＞					
岩田　鎌太郎	東京盲唖学校教員練習科		大正4年8月	(?)	函館校へ
酒百　不二郎	京都市立盲唖院普通科		大正7年4月 昭和2年	大正11年 昭和4年	私立福井聾唖学校卒業
鰐渕　勉	福井県立聾唖学校中等部		昭和11年	(?)	昭和11年3月に同校卒業
飛田　一郎	(?)		(?)	(?)	
滋賀県立聾話学校【昭和3年滋賀県立聾話学校→現在に至る[66]】＜昭和3年4月＞					
西川　はま子	近江兄弟社幼児教育研究所		昭和8年3月 (?)	(?)	寄宿舎の看護人
京都府立聾学校 【明治11年仮盲唖院→明治12年京都府立盲唖院→明治22年京都市立盲唖院→大正14年分離独立・京都市立聾唖学校→昭和6年京都府立聾唖学校→昭和7年京都府立聾学校→現在に至る[67]】＜昭和3年4月＞					
伊集院　キク	京都市立盲唖院尋常科	普通科助手	明治29年	明治32年	佐土原校へ
上枝　寛平	京都市立盲唖院尋常科	助手	明治31年10月	明治32年4月	

氏名	最終卒業学校	最終資格	勤務期間		備考
			自	至	
兒玉　兌三郎	京都市立盲唖院工芸図画科	絵画科嘱託	明治33年4月	大正2年6月	
中垣内　久次郎	京都市立盲唖院尋常科	普通科教員	明治35年3月	昭和5年	
木村　リャウ	京都市立盲唖院裁縫科	裁縫科助手	明治35年3月	明治36年8月	死亡退職
岡　元次	京都市立盲唖院高等絵画科	絵画科嘱託	明治40年4月	大正11年11月	
伊藤　フジ	京都市立盲唖院裁縫科	裁縫科助手	(?)	(?)	
穴戸　道之助	京都市立盲唖院木工科	木工科助手	明治45年3月	(?)	
村田　好述	京都市立盲唖院高等絵画科	絵画科助手	大正2年	大正15年	私立大阪盲唖院第1回卒業
三嶋　邦三	京都市立盲唖院高等普通科	教諭	大正7年	昭和13年	下関校から
宮津盲唖学校【大正14年開校→昭和2年、丹後大震災で廃校[68]】＜記録ナシ＞					
梅田　幾郎	東京聾唖学校高等科	教員	大正14年6月	大正15年3月	出典／『聾唖界』37, p38
奈良県立盲唖学校 【大正9年私立奈良盲唖学校→昭和6年奈良県立盲唖学校→昭和24年盲唖分離・奈良県立聾学校→昭和44年奈良県立ろう学校→現在に至る[69][70]】＜昭和6年4月＞					
大阪府立聾口話学校 【大正15年私立大阪聾口話学校→昭和6年大阪府立代用聾唖学校→昭和8年3月大阪府立聾唖学校→昭和8年8月大阪府立聾口話学校→昭和23年大阪府立聾学校→昭和29年大阪府立生野ろう学校→昭和36年大阪府立生野ろう学校鶴橋分校設置→昭和49年大阪府立生野ろう学校を大阪府立生野ろう学校桃谷分校に、大阪府立生野ろう学校鶴橋分校を大阪府立生野ろう学校→大阪府立生野聾学校→大阪府立生野聾学校桃谷分校を勝山分校→昭和59年勝山分校の廃止→平成4年大阪府立生野高等聾学校設置→平成20年大阪府立生野聴覚支援学校→現在に至る[71]】 ＜大正15年5月＞					
大阪市立聾唖学校 【明治33年私立大阪盲唖院→明治40年市立大阪盲唖学校→大正8年大阪市立盲唖学校→大正12年盲唖分離・大阪市立聾唖学校→昭和23年大阪市立聾学校→平成21年大阪市立聴覚特別支援学校→現在に至る[72][73]】 ＜昭和7年4月＞					
福島　彦次郎	私立大阪盲唖院	教員	明治42年4月	昭和24年5月	
吉田　政雄	私立大阪盲唖院	教員	明治42年4月	昭和11年3月	
戸田　一成	大阪市立盲唖学校	教務助手	明治43年4月	大正9年9月	
小寺（平松）竜	大阪市立盲唖学校	教務助手	明治43年6月	大正5年4月	大阪市立盲学校60年史
山田　馨	私立大阪盲唖院	教務助手	明治45年4月	大正2年9月	
石原　重太郎	私立大阪盲唖院	教務助手	明治45年4月	大正6年4月	大阪市立盲学校60年史
小阪　きみの	大阪市立盲唖学校	教務助手	明治45年4月	大正7年4月	
浜田　芳一	私立大阪盲唖院	教務助手	大正3年4月	大正4年2月	大阪市立盲学校60年史

氏名	最終卒業学校	最終資格	勤務期間		備考
			自	至	
稲垣　重雄	大阪市立盲唖学校	教務助手	大正5年10月	大正6年4月	大阪市立盲学校60年史
富田　和蔵	大阪市立盲唖学校	教務助手	大正6年3月	大正9年9月	大阪市立盲学校60年史
原　直弘（一郎）	大阪市立盲唖学校	教務助手	大正6年4月	大正9年4月	大阪市立盲学校60年史
行者　栄一	大阪市立盲唖学校	教務助手	大正6年4月	大正9年9月	大阪市立盲学校60年史
奥田(渡辺)サカ	大阪市立盲唖学校	教務助手	大正6年4月	大正7年3月	
高平　久雄	大阪市立盲唖学校	教員	大正7年4月	昭和19年5月	
藤本　敏文	東京聾唖学校師範科普通科	教員	大正7年8月	昭和27年3月	福岡校から
森　オエイ	大阪市立盲唖学校	教務助手	大正8年4月	大正9年9月	大阪市立盲学校60年史
寺島　ハル	大阪市立盲唖学校	教務助手	大正9年4月	大正11年	
広間　ひで	東京女子高等師範学校	教員	大正10年2月	昭和14年	私立神戸校から
前川　皓	大阪市立盲唖学校	教務助手	大正11年4月	大正12年3月	
中村　和平	大阪市立盲唖学校	教員	(?)	昭和10年4月	
谷口　勝	大阪市立盲唖学校	教員	大正12年4月	昭和11年3月	
藤井　つや		教員	大正12年3月	昭和28年7月	藤井東洋男の姉
藤井(平野)露子	大阪市立盲唖学校		(?)	昭和22年8月	藤井東洋男の妻
徳山　正規	東京聾唖学校師範部普通科甲種	教員	昭和2年3月	昭和26年1月	東京聾唖学校師範部昭和3年卒業
大家　善一郎	大阪市立聾唖学校	教員	昭和4年4月 昭和23年10月	昭和17年1月 昭和52年3月	
笠原　駿六	東京聾唖学校木工科	教員	昭和9年1月	昭和38年3月	
西川　はま子	近江兄弟社幼児教育研究所	嘱託教員	昭和16年3月	昭和18年（?）	徳川義親候の口添えで就職
河野　博夫		嘱託教員	(?)	(?)	
梶谷　ます子		教員			高知校へ
大阪摸範盲唖学校【明治12年大阪摸範盲唖学校→明治13年私立大阪盲唖学校→明治25年廃校[74]】 ＜記録ナシ＞					
大阪摸範盲唖学校【明治12年大阪摸範盲唖学校→明治13年私立大阪盲唖学校→明治25年廃校[74]】 ＜記録ナシ＞					
私立神戸聾唖学校 【大正4年私立神戸聾唖学校→大正9年私立神戸盲唖学校→大正13年私立神戸聾唖学校→同年県立代用校の認可を受ける→昭和7年廃校[75]】＜記録ナシ＞					
岩本　一次	京都市立盲唖院普通科		(?)	昭和4年7月	出／『聾唖界』49, p52
畠山　重一	京都市立盲唖院高等普通科		(?)	昭和元年4月	

氏名	最終卒業学校	最終資格	勤務期間		備考
			自	至	
山添　大助	東京聾唖学校師範科木工科	嘱託（木工）	大正8年4月	(?)	官立東京校から
栗田　四朗	東京聾唖学校師範部普通科		(?)	(?)	聾（中学部の時に失聴）神戸聾唖学校へ編入。
広間　ひで	東京女子高等師範学校	教員	大正9年	大正10年	大阪市立校へ
村井　まさえ	私立神戸聾唖学校	助手	大正10年4月	昭和2年	
高津　治男		助手			出典／『聾唖界』30, p48
山本　康	私立神戸聾唖学校	助手	大正10年4月	昭和4年4月	出典／『聾唖界』49, p52
梅田　幾郎	東京聾唖学校高等科	助手	大正13年5月	大正14年5月	私立熊本盲唖技芸学校卒業。神戸校辞職の後、宮津校へ
伊藤　利介			大正15年5月	大正15年7月	官立東京校師範科を途中退学
澤田　勝之（改名後：邦男）	東京聾唖学校裁縫科	助手	大正15年9月	昭和4年9月	出典／『聾唖界』49, p52
広畑　肇		助手	昭和4年4月	昭和4年7月	出典／『聾唖界』49, p52

兵庫県立聾唖学校
【昭和6年兵庫県立聾唖学校→昭和23年兵庫県立神戸聾学校→平成19年兵庫県立神戸聴覚特別支援学校→現在に至る[76]】＜昭和6年5月＞

和歌山県立盲唖学校
【明治42年和歌山師範学校附属小学校聾唖学級→大正4年紀伊教育会附属盲唖学校→大正7年和歌山県立盲唖学校→昭和23年和歌山県立聾学校→現在に至る[77]】＜大正7年4月＞

中川　絹子		代用教員	大正4年	大正6年	紀伊教育会附属盲唖学校教員
昭和15年1名在職					

和歌山県田辺第一小学校大浜分教場聾唖部
【大正12年学校組合立紀南盲唖学校→大正13年町立紀南盲唖学校→昭和3年廃校→同年6月田辺第一小学校大浜分教場聾唖部→昭和13年閉鎖[78]】＜大正12年5月30日＞※

堺市立堺聾唖学校
【昭和9（1935）年堺聾唖講習所→昭和16年堺市立堺聾唖学校→昭和20（1945）年に廃校[79]】
＜昭和9年4月＞

鳥取県立鳥取聾唖学校
【明治43年私立鳥取盲唖学校→昭和6年鳥取県立代用盲及聾唖学校→昭和12年鳥取県立盲聾唖学校→昭和23年盲聾分離→鳥取県立鳥取聾学校→現在に至る[80]】
＜昭和5年4月＞

服部　たか子	京都市立盲唖院裁縫科		明治43年7月	(?)	

氏名	最終卒業学校	最終資格	勤務期間		備考
			自	至	
岡山県盲唖学校 【明治39年2月私立岡山盲唖学校→同年廃校、明治41年私立岡山県教育会附属盲唖院→明治43年私立岡山盲唖学校→昭和2年岡山県立盲唖学校→昭和23年盲唖分離→現在に至る[81][82]】＜大正13年4月＞					
三浦　浩	東京聾唖学校教員練習科		明治39年4月	明治39年7月	私立岡山盲唖学校東京校へ
井上　久之亟	東京盲唖学校練習師範科盲部	聾唖部教員	大正2年4月	昭和5年3月	
秋田　勝代		訓導	大正11年	昭和3年	
広島県立盲唖学校 【大正3年私立広島聾唖学校→大正10年広島県立盲唖学校→昭和9年盲唖分離→平成19年広島県立広島南支援学校→現在に至る[83]】＜大正14年4月＞					
藤本　敏文	京都市立盲唖院普通科発音科	教員	大正3年9月	大正4年2月	松江校から官立東京校師範科入学
多田　眞佐雄	東京盲唖学校教員練習科	教員	大正5年	大正12年	長岡校から福岡校へ
高増　啓蔵	東京聾唖学校師範科図画科	教員	大正12年	昭和31年	
松江盲唖学校 【明治38年私立松江盲唖学校→明治40年松江婦人会盲唖学校→明治44年私立松江盲唖学校→大正12年島根県立盲唖学校→昭和23年盲唖分離→昭和28年島根県立松江ろう学校→現在に至る[84][85]】＜昭和3年4月＞					
山本　茂樹	東京盲唖学校図画科	教員	明治38年	大正2年	
井上　久之亟	東京盲唖学校教員練習科盲部		明治38年 明治41年（?）	明治39年 明治44年（?）	岐阜訓盲院卒業 岡山校へ
藤本　敏文	京都市立盲唖院普通科発音科	教員			
吉儀　八次	松江盲唖学校	教員	大正6年 大正9年	大正8年（?） 昭和5年	大正8年（?）～大正9年長崎校へ
金田　和之	松江盲唖学校		（?）	（?）	
香川県立聾唖学校 【明治40年香川県盲唖教育会→大正13年香川県立聾唖学校→昭和23年香川県立聾学校、香川県立盲学校と分離→現在に至る[86]】＜昭和2年4月1日＞					
徳島県立盲唖学校 【明治27年五宝翁太郎、盲唖生の特別指導を開始→明治38年私立徳島盲唖学校→明治41年徳島師範学校附属小学校聾唖学級→大正4年盲の学級が追加→昭和6年徳島県立盲唖学校→昭和23年盲唖分離・徳島県立聾学校→現在に至る[87]】＜昭和6年4月25日＞					
愛媛県立盲唖学校 【明治40年私立愛媛盲唖学校→昭和4年愛媛県立盲唖学校→昭和23年愛媛県立聾学校→昭和27年愛媛県立松山聾学校→現在に至る[88]】＜昭和3年4月6日＞					
柳原　義一	私立愛媛盲唖学校	代用教員	大正12年6月	大正13年（?）	
高知県師範学校附属小学校盲唖部【明治41年→昭和3年中断[89][90]】＜記録ナシ＞					

氏名	最終卒業学校	最終資格	勤務期間		備考
			自	至	
高知県立盲唖学校 【昭和4年高知県立盲唖学校→昭和23年高知県立盲学校・高知県立ろう学校→盲学校・聾学校の分離→昭和34年高知県立高知ろう学校→現在に至る[91]】＜昭和4年4月15日＞					
梶谷　ます子		教員			大阪市立校から
山口県立下関盲唖学校 【明治40年下関博愛盲唖学校→昭和4年山口県立下関盲唖学校→昭和23年盲唖分離・山口県立聾学校→平成20年山口県立山口南総合支援学校→現在に至る[92]】＜大正15年4月＞					
清水　繁三郎	京都市立盲唖院尋常科	教員	明治40年9月	明治43年9月	
三嶋　邦三	京都市立盲唖院高等普通科	教員	明治43年4月	大正7年11月	京都校へ
三嶋(松井)花子	下関博愛盲唖学校普通科	助手	大正6年9月	大正7年9月	下関博愛盲唖学校第1回卒業生
五十君　時子	下関博愛盲唖学校普通科	教員 訓導	大正7年11月 大正12年10月	大正11年4月 昭和7年3月	大正3年4月～大正6年3月官立東京校高等科 裁縫科
石津(小篠)直吉	京都市立盲唖院尋常科	教員	大正7年11月	大正9年3月	
荒木　マツ	長崎聾唖学校技芸部裁縫科	教員	大正10年9月	大正12年7月	
小久保　八朗	東京聾唖学校師範科図画科	教員	大正11年4月	大正12年3月	豊橋校へ
五十君(伊藤)富雄	(?)	教員	大正12年4月	昭和7年3月	
廣瀬　幸種	福岡県盲唖学校木工科	嘱託	昭和5年5月	(?)	大正7年下関校普通科卒業
宇部聾唖学会【昭和3年→昭和26年[93]】＜記録ナシ＞					
小林　静雄	京都市立盲唖院尋常科	校長	昭和3年	昭和26年	
小林　ヨシ子	下関博愛盲唖学校	教員	昭和4年	昭和26年	
福岡県福岡聾学校 【明治43年私立福岡盲唖学校→大正13年福岡県立福岡盲唖学校→昭和6年盲唖分離→平成22年4月福岡県立福岡聴覚特別支援学校→現在に至る[94][95]】 ＜大正14年4月6日＞					
藤本　敏文	東京聾唖学校師範科普通科	訓導	大正5年4月	大正7年7月	官立東京校卒業後大阪市立校へ
萬澤　格	東京聾唖学校師範科普通科	訓導	大正7年8月	大正10年3月	長崎校から
森島　虎之助	私立福岡盲唖学校高等科	助手	大正7年5月 大正10年4月	大正8年8月 大正14年7月	
林　虎四郎	私立福岡盲唖学校高等科	助手	大正8年8月	大正11年3月	
多田　眞佐雄	東京盲唖学校師範科図画科	教諭・舎監	大正12年9月	昭和5年3月	広島校から長岡校へ

氏名	最終卒業学校	最終資格	勤務期間		備考
			自	至	
義村　弘平	私立福岡盲唖学校高等科	嘱託教員	大正13年5月	昭和12年3月	
山田　忠	福岡盲唖学校	洋服裁縫科嘱託教員	大正13年5月	昭和8年3月	
長崎県立聾唖学校 【明治31年私立長崎盲唖院→明治33年私立長崎盲唖学校→大正13年盲唖分離→昭和4年長崎県立聾唖学校→現在に至る[96][97]】＜大正14年7月＞					
森　寛三	東京盲唖学校尋常科	普通科助手	明治36年4月	明治40年1月	佐賀校へ
妻木(伊藤)末子	長崎盲唖学校唖技芸図画科	訓導	明治39年4月	明治44年9月	退職後、官立東京校師範科図画科に入学
高岡　威海衛	長崎盲唖学校聾唖技芸科木工部		明治43年（?）	大正12年5月	明治43年京都市立盲唖院尋常科卒業
萬澤　格	東京聾唖学校師範科普通科	訓導	大正4年9月	大正8年8月	官立東京校師範卒福岡校へ
吉儀　八次	松江盲唖学校		大正8年9月	大正9年9月	再び松江校へ
井上　信太郎	京都市立盲唖院木工科	教員	大正9年10月	昭和22年6月	
大汐(森川)ひち子	長崎盲唖学校	臨時教員助手	大正13年5月	(?)	
徳永　つる子	長崎盲唖学校	教員助手	(?)	(?)	
私立佐賀盲唖学校【明治39（1906）年設立→大正4年閉校[98]】＜記録ナシ＞					
森　寛三	東京盲唖学校尋常科	教員	明治40年	大正4年	長崎校から
佐賀県立盲唖学校 【大正4年佐賀盲唖教授所→大正13年私立佐賀盲唖学校→昭和9年佐賀県立盲唖学校→昭和22年盲唖分離→現在に至る[99]】＜大正13年10月23日＞					
日渓　克己	長崎盲唖学校	教員助手	(?)	(?)	
私立佐世保盲唖学校 【昭和6年訓盲院→昭和7年盲唖学院に改組し聾唖部を設置→昭和10年私立佐世保盲唖学校→昭和20年強制疎開のため破壊され閉校[100]】＜記録ナシ＞					
元山　スエ	長崎県立聾唖学校		昭和10年10月	昭和12年5月	
熊本県立盲唖学校 【明治44年私立熊本技芸盲唖学校→大正8年熊本盲唖学校→大正15年熊本県立盲唖学校→昭和22年盲唖分離・熊本県立聾学校→昭和28年熊本県立熊本聾学校→現在に至る[101]】＜大正15年4月1日＞					
萬澤　格	東京聾唖学校師範科普通科		大正元年9月	大正3年3月	官立東京校師範科へ
中津　義人	熊本盲唖学校普通科	訓導	大正4年	昭和10年3月	熊本盲唖学校普通科第1回卒業
東　一生	東京聾唖学校高等科	助手	大正7年	大正10年（?）	
高岡　威海衛	長崎盲唖学校聾唖技芸科木工部	訓導	大正12年6月	昭和4年3月	長崎校から

氏名	最終卒業学校	最終資格	勤務期間		備考
			自	至	
大分県立盲唖学校 【明治41年私立大分盲唖学校→大正10年県立盲唖学校→大正11年聾唖部新設→昭和23年盲唖分離→現在に至る[102]】＜昭和11年4月1日＞					
延岡盲唖学校 【昭和3年延岡訓盲会→昭和4年私立延岡盲唖学校→昭和23年都城ろう学校分校→昭和30年宮城県立延岡ろう学校→平成20年宮城県立延岡とろろ聴覚支援学校→平成24年宮崎県立延岡しろやま支援学校→現在に至る[103]】 ＜昭和4年7月1日＞					
宮崎県立聾学校 【昭和2年都城市聾話学院→昭和4年都城聾話学校→昭和10年宮崎県立聾学校→現在に至る[104]】 ＜昭和10年4月1日＞					
私立鹿児島聾唖学校（佐土原聾唖学校）【明治33年～昭和4年[105][106]】＜記録ナシ＞					
伊集院　キク	京都市立盲唖院尋常科		明治33年	明治36年	
鹿児島県立盲唖学校 【明治36年鹿児島慈恵盲唖学校→大正8年私立鹿児島盲唖学校→昭和4年鹿児島県立盲唖学校→昭和23年盲唖分離→現在に至る[107]】＜大正13年4月＞					
伊集院　キク	京都市立盲唖院尋常科	教員	明治36年2月	明治42年	
川田　佐雄	東京盲唖学校尋常科	教員	大正10年7月	昭和11年3月	『口なしの花』第７号
県立代用沖縄聾唖学校 【大正13年私立沖縄聾唖学校→昭和6年沖縄県立代用沖縄聾唖学校→昭和18年沖縄県立盲聾唖学校→昭和26年琉球政府立沖縄盲唖学校→昭和29年沖縄盲聾学校・沖縄盲聾学園と分離→昭和34年盲唖分離→琉球政府立沖縄聾学校→昭和47年沖縄県立聾学校→現在に至る[108]】 ＜昭和17年4月1日＞					
我謝　盛輝	東京聾唖学校師範科図画科		(?)	昭和20年（?）	沖縄出身 戦死
新田　保吉	沖縄聾唖学校				
朝鮮総督府済生院盲唖部 【大正2年済生院盲唖部を設置→昭和20年国立盲唖学校→現：大韓民国／国立ソウル聾唖学校[109][110]】 ＜昭和13年4月10日＞					
1名在職					
平壌盲唖学院【明治37年平壌盲唖学校→？→昭和10年平壌光明盲唖学校→？[111]】 ＜口話可能性アルモノハ之ヲ指導ス＞					
台北州立台北盲唖学校 【大正6年木村盲唖教育所→大正9年私立台北盲唖学校→昭和3年台北州立台北盲唖学校→昭和20年台湾省立台北盲唖学校→中華民国／民國51（昭和37）年台湾省立台北盲聾学校→民國56（昭和42）台北北市立盲聾学校→民國64（昭和50）盲聾両部独立・台北市立啓聴学校→現在に至る[112][113]】＜昭和3年4月1日＞					
林　文勝	東京聾唖学校師範部裁縫科	教諭 校長	大正7年6月 昭和21年2月	昭和9年（?） 昭和26年7月	台湾人。 戦後、台湾省立台北盲唖学校々長
須堯　秀一郎	大阪市立聾唖学校中等部普通科		(?)	(?)	在職1年

氏名	最終卒業学校	最終資格	勤務期間		備考
			自	至	
台南州立台南盲唖学校 【明治23年訓盲院→明治33年台南慈惠院→大正6年唖部技芸科を設置→大正11年台南州立台南盲唖学校→中華民国／昭和21年台湾州立台南盲唖学校→民国51（昭和37）年臺灣省立臺南盲聾學校→民国57（昭和43）年台湾省立台南啓聴学校→民国89（平成12）年国立台南啓聴学校→民国101（平成24）年国立台南大学附属啓聴学校→現在に至る[114][115]】＜全生指文字ヲ使用＞					
古賀　二男	台南盲唖学校普通科及技芸科	教諭心得	昭和7年	昭和9年	
今野　妙	台南盲唖学校普通科及技芸科				
木邑　實	台南盲唖学校普通科及技芸科				
大連盲唖学校【大正12年大連訓盲院→大正13年大連盲唖学校→昭和5年引継ぎ廃校[116]】＜記録ナシ＞					
大塚　志道	東京盲唖学校尋常科		大正14年4月	(?)	
関東州盲唖学校 【昭和3年大連大広場尋常小学校特別学級として聾唖教育を開始→昭和4年大連聾唖学校→昭和5年（木下已三郎の大連盲唖学校通学の盲唖日本人を収容し）関東廳盲唖学校→昭和9年関東州盲唖学校→昭和12年官立大連盲唖学校→昭和22年引揚で廃校[117]】＜昭和4年10月1日＞					
奉天盲唖学校【創設者：田代清雄、昭和11年→昭和14年[118]】＜記録ナシ					
新田　保吉	沖縄聾唖学校		昭和11年（?）	昭和14年（?）	沖縄校より
満州国赤十字社新京聾唖学校 【昭和11年私立新京聾唖学校（鄒樹春、孫化南らにより設立）→昭和14年接収合併→昭和20年廃校[119]】 ＜康徳6（昭和14）年3月1日　手話ヲ補助トス＞					
城戸　正喜	福岡県立聾唖学校中等部	日語学校			

参考文献

日本聾唖協会（1914－1942）『聾唖界』１－97
藤本敏文（1935）『聾唖年鑑　昭和10年度』聾唖月報社
聴覚障害者教育福祉協会（1979）『聾教育百年のあゆみ』
荒川勇、大井清吉、中野善達著（1976）『障害者教育史』
坂本佐千子（1992）『盲聾教育・福祉年表』，大空社
日本聾唖教育会編（1939－1941）『全国聾唖学校職員名簿』
北海道函館聾学校編（1957）『北海道函館盲学校北海道函館聾学校沿革史』
小樽盲唖学校編（1926）『財団法人小樽盲唖学校創立20周年記念号』
宮城県立盲唖学校編（1939）『創立二十五年史』
私立茨城盲唖学校編（1917）『私立茨城盲唖学校一覧　大正六年五月』（岡本洋提供）
東京聾唖学校編（1912－1934. 1937－1943）『東京聾唖学校一覧』（国会図書館所蔵）
東京聾唖学校編（1935）『60年史』東京盲唖学校唖生同窓会（1896－1904）『唖生同窓会報告』１－10
筑波大学附属聴覚特別支援学校（2012）『復刻口なしの花　殿坂の友』東京聾唖学校同窓会誌，１－４，明石書店
東京教育大学附属聾学校編（1975）『東京教育大学附属聾学校の教育　―その百年の歴史―』
東京教育大学教育学部附属ろう学校同窓会（1966）『会員名簿』「国府台」14
那須英彰・須崎純一共編者（1998）『藤本敏文』，筑波大学附属聾学校同窓会
愛知県立豊橋聾学校同窓会（1998）『名簿』
愛知県立豊橋聾学校同窓会（2001）『創立百年史』
愛知県立岡崎聾学校（2003）『偉大なる先達を慕いて　―岡崎聾学校の礎を築いた二人の先生―』創立100周年記念事業実行委員会
愛知県聾学校編（1940）『愛知県聾学校二十五年史』
福井県聾学校（1964）『福井県聾学校五十年史』
福井県立ろう学校編（1986）『福井県立ろう学校七十年史』
高山弘房（1982）『口話教育の父　西川吉之助伝』
京都市立盲唖院聾唖院友会（1902－1912. 1915）『無聴之友』１－10．16
京都市立盲唖院（1903）『創立弐拾五年紀念　京都市立盲唖院一覧』
京都市立盲唖院（1913）『京都市立盲唖院一覧（大正元年度）』
京都市立盲学校、京都市立聾唖学校同窓会（1929）『日本盲唖教育史』
盲聾教育開学百周年記念事業実行委員会（1978）『京都府盲聾教育百年史』
岡本稲丸（1997）『近代盲聾教育の成立と発展　古河太四郎の生涯から』，NHK出版
京都府立ろう学校同窓会（1958）『会員名簿』
大阪市立聾学校（1962）『大阪市立聾学校名簿』
大阪市立聾学校（1972）『大阪市立聾学校七十年史』
大阪市立盲学校（1960）『大阪市立盲学校60年史』
大阪市立盲学校（1970）『大阪市立盲学校70年史』
高橋武三（1992）「兵庫県聾教育の草創期を明らかにする：忘れられた創始者・松谷富吉の生涯から」『県立神戸聾学校研究紀要　創立六〇周年記念特集号』53
神戸ろうあ協会（2001）『創立80周年記念誌』
岡山県教育会編（1936）「盲唖学校の創設」『岡山県教育会五十年史』，p32－34
岡山県盲唖学校三十周年記念会（1938）『回顧三十年』
まつえ女性史を学ぶ会（2003）『花守りのひと　盲ろう児の未来を拓いた福田与志』
まつえ女性史を学ぶ会（2006）『落穂集』
山口県立聾学校（1987）『山口聾　八十年のあゆみ』
宇部手話会（2002）『ろう教育にかけたろう教師―小林塾の足跡を求めて―』
山口県立下関盲唖学校（1932）『山口県立下関盲唖学校要覧』（大阪市立盲学校所蔵）
福岡県福岡聾学校（1940）『福岡聾学校三十年史』
佐賀県特殊教育百年記念会（1978）『佐賀県特殊教育史―特殊教育史百年記念―　』
八坂信男（1977）『大分県特殊教育史』
安中半三郎（1908）「長崎盲唖学校十周年誌」（室田保夫・蜂谷俊隆編『子どもの人権問題資料集成戦前編』９，222－229所有）（岡本洋提供）
長崎盲唖学校聾唖校友会（1916. 1917. 1919. 1924－1927）『聾唖の友』５．７．９．11－13
熊本県立盲唖学校（1931）『熊本縣立盲唖学校要覧昭和二年四月』
熊本盲唖学校編（1936）『創立二十五年　昭和11年11月20日』
鹿児島県立盲唖学校（1936）『侍従御差遣　改築落成記念誌』
沖縄県教育委員会（1983）『沖縄の特殊教育史』
大連盲唖学校（1939）『校報　昭和十三年度』
大連盲唖学校同窓会（1984）『しおり：佐藤則之先生の叙勲を祝う集い』
嶋田道彌著（1935）『満州教育史』，P528－531
沈清著（1996）『「満州国」社会事業史』，P147－148，MINERVA社会福祉

札幌聾史研究会（2002－2006）『北海道聾史研究』１－7
近畿聾史研究グループ(1997－2012)『聾歴史月報』１－60

日本聾唖教育会（1933）「全国聾唖学校口話手話状況一覧：昭和8年5月20日：日本聾唖教育会調査」『聾唖教育』22，p60－68
日本聾唖教育会（1940）「全国聾唖学校口話手話状況一覧:昭和15年5月20日:日本聾唖教育会調査」『聾唖教育』60，p32－41
日本聾唖教育会(1941)「全国聾唖学校：寄宿、通学、後年学、難聴生徒調査：附聾唖者の職員数：日本聾唖教育調査部」『聾唖教育』61，p37－47
(1943)「手話口話生徒状況調査（昭和十七年十二月末調査)」『聾唖の光　教育号』２，４，p25－37

岡本稲丸(1990)「わが国聴覚障害教員略史：戦前・戦後を中心に」『ろう教育科学』32，2，p31－46
岡本稲丸(1990)「わが国聴覚障害教員略史：戦前・戦後を中心に（Ⅱ)」『ろう教育科学』32，3，p19－40
梶本勝史（1979）「戦争に消えた聾学校：堺市立堺聾唖学校」『日本聴力障害者新聞』340，p9
梶本勝史(1980)「ある公立盲唖学校の開設と閉鎖：紀南盲唖学校を通して」『ろう教育科学』22，３・４，p161－172
梶本勝史（2001）「新聞記事にみる私立佐世保盲唖学校：昭和5年～昭和20年」大阪教育大学，教養学科，発達人間学講座，
梶本勝史（2002）「手話法から口話法への移行期における“手真似文字”と私立佐世保盲唖学校」『発達人間学論叢』5，p125－149，大阪教育大学
梶本勝史（2003）「新聞報道でよみがえった私立佐世保盲唖学校」『発達人間学論叢』６，p55－61，大阪教育大学
梶本勝史（2003）「増補版　佐賀新聞（明治末期～昭和初期）に“私立佐賀盲唖学校”を瞥見する」大阪教育大学教養学科，発達人間福祉学講座
金龍燮(1998)「朝鮮総督府済生院に関する一考察：盲唖部を中心に」『大学院教育学部研究紀要』創刊号，p229－242
小松教之（1988）「私立沖縄聾唖学校設立者　田代清雄の知られざる足跡」『発達障害研究』10，３，p232－236
小松教之(1989)「満州国赤十字社新京聾唖学院」『発達障害研究』11，１，p65－69
小松教之(1989)「旧満州国赤十字社新京聾唖学院・初代学院長「田代清雄」について」1989，p127－139
佐々木順二、中村満紀男（2001）「大正期の福岡盲唖学校における株式会社聾唖工芸品製作所設立の経緯と理念」『心身障害学研究』25，p111－126
佐々木順二、中村満紀男（2004）「聾唖学校における専門的教員の増加および口話法の導入と保護機能の分離―大正期から昭和前期の福岡盲唖学校を事例として」『心身障害学研究』28，p81－97，筑波大学心身障害学系
佐々木順二（2005）「和歌山県立盲唖学校の創設期（大正４～大正11年）の教育的課題と和歌山聾唖興業会設立の経緯」『心身障害学研究』29，ｐ１－16
佐々木順二、岡典子（2006）「大正期の聾唖者による東京楽善合資会社設立の経緯と理念：その事業の性格と聾唖者教師・三浦浩の自立像」『東京学芸大学紀要．総合教育科学系』57，p291－301
佐々木順二（2012）「私立熊本盲唖技芸学校の県立移管における事業の性格について：大正期熊本県会の審議より」『紀要visio:research　reports』42，p43－57
清野茂（1997）「昭和初期手話－口話論争に関する研究」『市立名寄短期大学紀要』29，p57－80
清野茂（1999）「ある聾唖学校教師の生涯：鈴木忠光と昭和の聾唖教育、聾唖運動」『市立名寄短期大学紀要』31，p53－77
清野茂（2000）「ある聾唖学校教師の生涯・補遺：鈴木忠光と昭和の聾唖教育、聾唖運動」『市立名寄短期大学紀要』31，p43－53
清野茂（2005）「ある聾教師、その実践と人生：大阪市立聾唖学校教諭・廣間ひでについて」『市立名寄短期大学』38，p1－12
清野茂（2007）「昭和初期聾唖教育における高橋潔と佐藤在寛」『北海道社会福祉史研究』8，p17－23
戸崎啓子（2007）「沖縄県における特別学級の歴史(2) 與那嶺惟俊と渡慶次小学校の「盲唖教育」」『琉球大学教育学部紀要』70，p15－23
根本匡文（2008）「昭和戦前の東京における聾唖児教育施設（1)・言泉学園」『聴覚障害』63，６，p26－34
根本匡文（2009）「昭和戦前の東京における聾唖児教育施設（2)・巣鴨聾唖学園」『聴覚障害』64，５，p42－48
根本匡文（2009）「昭和戦前の東京における聾唖児教育施設(3)・東京昭和学園」，『聴覚障害』64，６，p41－48
根本匡文（2009）「昭和戦前の東京における聾唖児教育施設(4)・東京聾唖技藝学園」『聴覚障害』64，７，p29－34

根本匡文（2009）「昭和戦前の東京における聾唖児教育施設（5）・東京聾話学校」『聴覚障害』64，８，p43－48
平田勝政、管達也（1998）「長崎県障害児教育史研究（第Ⅰ報）：1898年設立の私立長崎盲唖院を中心に」『長崎大学教育学部教育科学研究報告』55，p25－34
平田勝政、管達也（1999）「長崎県障害児教育史研究（第Ⅱ報）：明治30－40年代の長崎県盲・聾教育を」『長崎大学教育学部教育科学研究報告』56，p11－25
平田勝政、管達也（1999）「長崎県障害児教育史研究（第Ⅲ報）：大正期の長崎県盲・聾教育を中心に」『長崎大学教育学部教育科学研究報告』57，p33－48
平田勝政、管達也（2000）「長崎県障害児教育史研究（第Ⅳ報）：昭和戦前期（1929～1937）の長崎盲・聾教育を中心に」『長崎大学教育学部教育科学研究報告』58，p29－46
平田勝政、管達也（2002）「長崎県障害児教育史研究（第Ⅴ報）：昭和戦中期～戦後初期の長崎県盲・聾教育を中心に」『長崎大学教育学部教育科学研究報告』62，p25－32
平田勝政、橋本亜沙美（2007）「戦前日本の聴覚障害児教育における職業教育と進路保障に関する歴史的考察：明治末～昭和戦前期の各種聾唖教育大会等の議論の検討を通して」『長崎大学教育学部紀要．教育科学』71，p1－11

＜注＞

［１］　新谷嘉浩（2005）「戦前の日本聾唖教員名簿」『日本聾史学会報告書』３，p81－93

［２］　朝鮮総督府済生院（1930）「卒業者状況表」『朝鮮総督府済生院事業要覧』P73によると同部唖生科から教員1名輩出。1932（昭和7）年１名、1934（昭和９）年０名、1935（昭和10）年０名、1938（昭和13）年「創立二十五年」は１名と報告あり。

［３］　中根伸一（2005）「樺太盲唖学校調査中間報告―残された史料と証言のなかから―」『日本聾史学会報告書』３，p126－131

［４］　中根伸一（2004）「北海道における聾学校の変遷」『北海道聾史研究』４，p26－28

［５］　中根伸一（2004）「北海道における聾学校の変遷」『北海道聾史研究』４，p29－30

［６］　中根伸一（2004）「北海道における聾学校の変遷」『北海道聾史研究』４，p28－29

［７］　中根伸一（2004）「北海道における聾学校の変遷」『北海道聾史研究』４，p31－32

［８］　中根伸一（2004）「北海道における聾学校の変遷」『北海道聾史研究』４，p30－31

［９］　佐藤忠道（2009）「北海道における障害児教育の成立過程に関する研究―戦前期の私立盲唖学校を中心として―」『道都大学紀要』34，p31

［10］　安藤房治（1992）「青森県障害児教育史－青森盲唖学校の設立と戦前における展開」日本特殊教育学会第30回大会，東北大学

［11］　青森県立青森聾学校ウェブサイト　http://www.tosei-w.asn.ed.jp/~sd/

［12］　青森県盲学校ウェブサイト　http://www.tosei-e.asn.ed.jp/~sh/index.html

［13］　岩手県立盛岡聴覚支援学校　http://www2.iwate-ed.jp/mor-r/index.html

［14］　山田勲（1979）『岩手の特殊教育の父　柴内魁三伝』

［15］　秋田県立聾学校ウェブサイト　http://www.kagayaki.akita-pref.ed.jp/uploads/File/rougakkou/enkaku.pdf

［16］　宮城県立盲唖学校編（1939）『創立二十五年記念誌』

［17］　宮城県立聴覚支援学校ウェブサイト　http://miyaro-s.myswan.ne.jp/miyaro/mro7.html

［18］　山形県立山形聾学校ウェブサイト　http://www.yamagata-sd.ed.jp/htdocs/?page_id=13

［19］　福島県立聾学校ウェブサイト　http://www.fukushima-sd.fks.ed.jp/index.htm

［20］　福島県教育委員会（1978）「特集　養護教育の歩みと展望」『教育福島』35，http://is2.sss.fukushima-u.ac.jp/fks-db/txt/47000.kyouiku_fukushima/00035/html/00006.html

［21］　栃木県立聾学校ウェブサイト　http://www.tochigi-edu.ed.jp/rogakko/nc/

［22］　茨城県立水戸聾学校ウェブサイト　http://www.mito-sd.ed.jp/index.html

［23］　埼玉県立特別支援学校大宮ろう学園ウェブサイト　http://www.ohmiya-sd.spec.ed.jp/

［24］　群馬県聾学校編（1979）『本校のあゆみ　群馬県立聾学校50周年記念』

［25］　保坂直枝・関矢晃（1991）『私立高崎聾唖学校沿革史』

［26］　東京聾唖学校（1935）『60年史』

［27］　筑波大学附属聾学校同窓会（2011）『同窓

会史：同窓会創立120周年記念』
［28］ 東京都立大塚ろう学校（1986）『創立60周年記念誌：あゆみ』
［29］ 東京市養育院（1901）「唖生教育の開始」『東京市養育院月報』５，p11
［30］ 岩田鎌太郎（1912）「聾唖救済私見」『慈善』４，１，p19－31
［31］ 聴覚障害者教育福祉協会（1979）『聾教育百年のあゆみ』，p274
［32］ 日本聾話学校（1990）『日本聾話学校七十年史』
［33］ 根本匡文（2009）「昭和戦前の東京における聾唖児教育施設（３）・東京昭和学園」『聴覚障害』64，６，p41－48
［34］ 根本匡文（2009）「昭和戦前の東京における聾唖児教育施設（４）・東京聾唖技藝学園」『聴覚障害』64，７，p29－34
［35］ 根本匡文（2009）「昭和戦前の東京における聾唖児教育施設（２）・巣鴨聾唖学園」『聴覚障害』64，５，p42－48
［36］ 根本匡文（2009）「昭和戦前の東京における聾唖児教育施設（５）・東京聾話学校」『聴覚障害』64，８，p43－48
［37］ 根本匡文（2008）「昭和戦前の東京における聾唖児教育施設（１）・言泉学園」『聴覚障害』63，６，p26－34
［38］ 千葉県立千葉聾学校ウェブサイト　http://www.chiba-c.ed.jp/chibarou/
［39］ 横浜市立ろう聴覚支援特別学校ウェブサイト　http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/ss/ro/zenkou/topics.htm
［40］ 伊藤照美（2010）「横浜監獄内にあった盲唖懲治場をめぐって」『日本聾史学会報告書』８，p82－92
［41］ 神奈川県立盲学校ウェブサイト　http://www.hiratsuka-sb.pen-kanagawa.ed.jp/
［42］ 横須賀市立聾学校ウェブサイト　http://schoolnet.edu.city.yokosuka.kanagawa.jp/schoolnet/special/251rou/
［43］ 山梨県立ろう学校ウェブサイト　http://www.rogako.kai.ed.jp/
［44］ 新潟盲学校ウェブサイト　http://www.niigatamou.nein.ed.jp/
［45］ 佐藤聖（2004）「中越盲唖学校と宮川文平」『日本聾史学会報告書』２，p77－78
［46］ 新潟聾学校ウェブサイト　http://www.niigatarou.nein.ed.jp/
［47］ 新潟県立長岡聾学校ウェブサイト　http://www.nagaokarou.nein.ed.jp/
［48］ 八木宰司（1915）「聾唖学校設立」『殿坂の友』15，p58，東京聾唖学校同窓会
［49］ 藤本敏文（1916）「五泉聾唖学校」『聾唖界』12，p42，日本聾唖協会
［50］ 長野県長野ろう学校（2003）「長野県長野ろう学校沿革史」『創立百周年記念誌』p１－12
［51］ 内田博幸（2001）『小岩井是非雄』長野県立松本ろう学校同窓会
［52］ 富山県立盲唖学校編（1936）『富山県盲唖教育三十年史』
［53］ 富山県立富山聴覚特別支援学校ウェブサイト　http://www.tomirou-sh.tym.ed.jp/
［54］ 北野与一（1979）「私立金沢盲唖院に関する一考察：設立者松村精一郎を中心に」『特殊教育学研究』17，２
［55］ 美多哲夫（2004）「石川県のろう教育史と人物」『日本聾史学会報告書』２，p56－60
［56］ 石川県立盲学校ウェブサイト　http://www.ishikawa-c.ed.jp/~mouxxs/
［57］ 静岡県立静岡聴覚特別支援学校ウェブサイト　http://www.edu.pref.shizuoka.jp/shizuoka-sd/home.nsf/
［58］ 梶本勝史（2012）「私立浜松聾唖学校の日本語指導：「助詞の手話」についての聴き取り調査」『聾史レポート集』２，p131－164，近畿聾史研究グループ
［59］ 市橋詮司（1998）『聴覚障害教師の嚆矢：吉川金造先生』愛知県立豊橋聾学校創立百周年記念事業実行委員会
［60］ 市橋詮司・岩月由典（2003）『偉大なる先達を慕いて　―岡崎聾学校の礎を築いた二人の先生―』愛知県立岡崎聾学校創立百周年記念事業実行委員会
［61］ 愛知県聾学校編（1940）『愛知県聾学校二十五年史』
［62］ 愛知県名古屋聾学校ウェブサイト　http://www.nagoya-sd.aichi-c.ed.jp/
［63］ 岐阜県立岐阜聾学校編（2011）『創立80周年記念誌』
［64］ 三重県立盲学校ウェブサイト　http://www.mie-c.ed.jp/sbmie/
［65］ 福井県立ろう学校編（1986）『福井県立ろう学校七十年史』
［66］ 滋賀県立聾話学校編（1988）『創立六十年記念誌』
［67］ 京都府聾教育開学百周年記念事業実行委員会（1978）『京都府盲聾教育百年史』
［68］ 新谷嘉浩（2003）「中村時次郎と宮津盲唖

学校」『“五老ヶ岳”同窓会設立20周年記念号』，p15－32
［69］ 山中輝章（2012）「奈良県ろう学校創立以前の私立奈良盲唖学校について」『聾史レポート集』2，p118－129，近畿聾史研究グループ
［70］ 奈良県立ろう学校ウェブサイト　http://www.nps.ed.jp/rou/index.html
［71］ 大阪府立生野聴覚支援特別学校ウェブサイト　http://www.osaka-c.ed.jp/ikuno-r/
［72］ 大阪市立聾学校編（1972）『大阪市立聾学校七十年史』
［73］ 大阪市立盲学校編（1960）『大阪市立盲学校60年史』
［74］ 新谷嘉浩（2012）「新聞記事から見る“大阪摸範盲唖学校”」『聾史レポート集』２，p32－117，近畿聾史研究グループ
［75］ 高橋武三（1992）「兵庫県聾教育の草創期を明らかにする：忘れられた創始者・松谷富吉の生涯から」『県立神戸聾学校研究紀要　創立六〇周年記念特集号』53
［76］ 兵庫県立神戸聴覚支援特別学校ウェブサイト　http://www.hyogo-c.ed.jp/~kobe-shn/
［77］ 佐々木順二（2005）「和歌山県立盲唖学校の創設期（大正４～大正11年）の教育的課題と和歌山聾唖興業会設立の経緯」『心身障害学研究』29，ｐ１－16
［78］ 梶本勝史（1980）「ある公立盲唖学校の開設と閉鎖―紀南盲唖学校を通して―」『ろう教育科学』22，３・４，p161－172
［79］ 梶本勝史（1979）「戦争に消えた聾学校堺市立堺聾唖学校」『日本聴力障害者新聞』340，ｐ9
［80］ 鳥取県立鳥取聾学校編（2001）「鳥取県立鳥取聾学校沿革史年表」『創立九十年史記念誌』p86－89
［81］ 岡山県立岡山盲学校ウェブサイト　http://www.okamo.okayama-c.ed.jp/enkaku/eien1.htm
［82］ 岡山県盲唖学校創立三十周年記念会（1938）『回顧三十年』
［83］ 広島県立広島南特別支援学校ウェブサイト　http://www.hiroshima-sd.hiroshima-c.ed.jp/
［84］ 島根県立松江ろう学校ウェブサイト　http://www.shimanet.ed.jp/matsurou/
［85］ まつえ女性史を学ぶ会（2003）『花守りのひと　盲ろう児の未来を拓いた福田与志』
［86］ 香川県立聾学校ウェブサイト　http://www.kagawa-edu.jp/rogaku01/rougak.htm
［87］ 徳島県立聾学校ウェブサイト　http://tokurou.tokushima－ec.ed.jp/
［88］ 愛媛県立松山聾学校ウェブサイト　http://matsuyama－sd.esnet.ed.jp/
［89］ 津曲裕次・清水寛・松矢勝宏・北沢清司編（1990）「師範学校附属小学校「特別学級」の成立と展開」『障害者教育史』p192
［90］ 高知大学教育学部附属小学校ウェブサイト　http://ozu.cc.kochi－u.ac.jp/～fusho/
［91］ 高知県立高知ろう学校編（1989）『創立60周年記念誌』
［92］ 山口県立聾学校編（1987）『山口聾：八十年のあゆみ』
［93］ 宇部手話会（2002）『ろう教育にかけたろう教師　―小林塾の足跡を求めて―』
［94］ 福岡県立福岡聴覚特別支援学校ウェブサイト　http://fukuoka－hss.fku.ed.jp/Default1.aspx
［95］ 福岡県福岡聾学校（昭和15年）『福岡聾学校三十年史』
［96］ 長崎県立ろう学校ウェブサイト　http://www.news.ed.jp/rou/
［97］ 平田勝政、管達也（1998）「長崎県障害児教育資料（Ｉ）:戦前・盲聾教育編」『長崎大学教育学部教育科学研究報告』54，ｐ１－17
［98］ 佐賀県特殊教育百年記念会（1978）『佐賀県特殊教育史：特殊教育百年記念』ｐ８－19
［99］ 佐賀県特殊教育百年記念会（1978）『佐賀県特殊教育史：特殊教育百年記念』p46－64
［100］ 梶本勝史（2002）「手話法から口話法への移行期における“手真似文字”と私立佐世保盲唖学校」『大阪教育大学発達人間学論叢』5，p125－149
［101］ 熊本県立熊本聾学校ウェブサイト　http://sakura1.higo.ed.jp/sh/kumaro/
［102］ 八坂信男（昭和52年）『大分県特殊教育史』
［103］ 宮崎県立延岡とろろ聴覚支援特別学校ウェブサイト　http://www.miyazaki-c.ed.jp/nobeoka-sd/
［104］ 宮崎県立都城さくら聴覚支援特別学校ウェブサイト　http://www.miyazaki-c.ed.jp/miyakonojo-sd/index.html
［105］ 鹿児島県立盲唖学校（昭和11年）『侍従御差遣改築落成記念誌』p37－45

［106］ 新谷嘉浩（2012年）「伊集院キクと私立佐土原学校」『聾歴史月報』61，p7－12，近畿聾史研究グループ

［107］ 鹿児島県立鹿児島聾学校ウェブサイト http://www.edu.pref.kagoshima.jp/ss/Kagoshima-A/

［108］ 沖縄県教育委員会（1983）『沖縄の特殊教育史』
同資料によると1907（明治40）年読谷村渡慶次尋常小学校で與那嶺惟俊によって盲唖教育がはじめられ（戸崎啓子「沖縄県における特別学級の歴史（2）與那嶺惟俊と渡慶次小学校の「盲唖教育」」『琉球大学教育学部紀要』70，p15－23）、沖縄師範学校附属小学校が1908（明治41）年4月から盲唖教育を開始した（「本県特殊教育年表」『沖縄の特殊教育史』p578）。沖縄出身の高良忠成が東京盲唖学校の訓導を経て、1912（明治45）年3月30日に沖縄師範学校附属赴任したと記録あり（山中忠太郎「客員、会員終息報」『口なしの花』11，p63－64）。同附属小学校盲唖教育の内容については不詳。
1917（大正6）年6月13日、鈴木邦義沖縄県知事の援助で沖縄県教育会付設沖縄盲唖院は授業が開始され與那嶺惟俊は教員として活動した。しかし、知事の休職で存在基盤を失った沖縄盲唖院は1920（大正9）年3月に閉校となった。（戸崎啓子：p20－22）。

［109］ 金龍燮（1993）「戦前における朝鮮の盲人教育：金千年の「韓国盲人界実録」を中心に」『アジア教育史研究』８，p69－70

［110］ 劉賢国（2009）「韓国手話の歴史的変返遷とその展開」『筑波技術大学テクノレポート』16，p38－41

［111］ 金龍燮（1993）「戦前における朝鮮の盲人教育：金千年の「韓国盲人界実録」を中心に」『アジア教育史研究』８，p68－69

［112］ 台北州立台北盲唖学校（1933）『台北州立台北盲唖学校一覧　昭和8年3月現在』

［113］ 台北市立啓聴学校ウェブサイトhttp://www.tmd.tp.edu.tw/tmd/modules/news/

［114］ 台南州立台南盲唖学校（1930）『台南州立台南盲唖学校一覧　昭和5年』
1998年、筆者が台北啓聴学校を訪問した時、戦前の台北盲唖学校教員の林文勝が台南盲唖学校の教諭を一時務めたことを聞いたが定かではない。転勤の動機や在職年月は不詳である。

［115］ 國立臺南大學附屬啟聰學校ウェブサイト http://www.tndsh.tnc.edu.tw

［116］ 高橋月南（1925）「大連の盲唖者教育」『社会教育』３，10，p57－60

［117］ 大連盲唖学校同窓会（1984）『しおり：佐藤則之先生の叙勲を祝う集い』

［118］ 小松教之（1989）「旧満州国赤十字社新京聾唖学院・初代学院長「田代清雄」について」『宮城教育大学紀要．第2分冊．自然科学・教育科学』24，p130－131

［119］ 小松教之（1989）「満州国赤十字社新京聾唖学院」『発達障害研究』11，１，p65－69